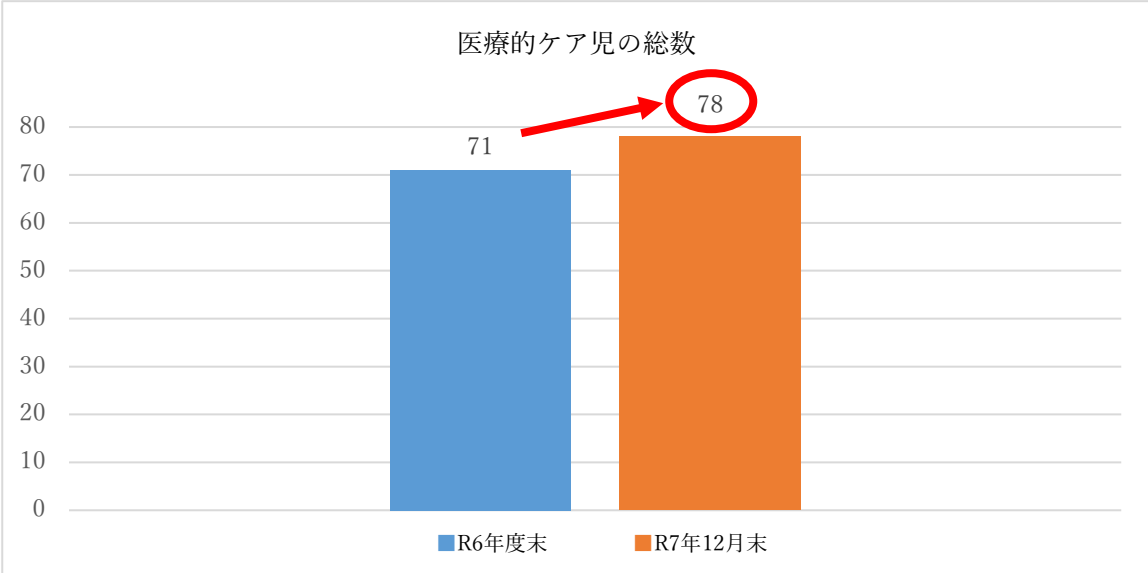


# 明石市の医療的ケア児の推移について

## ①障害福祉課で把握している医療的ケア児の総数

・R6 年度末では 71 名、R7年12月末では 78 名であり、7 名増加している。

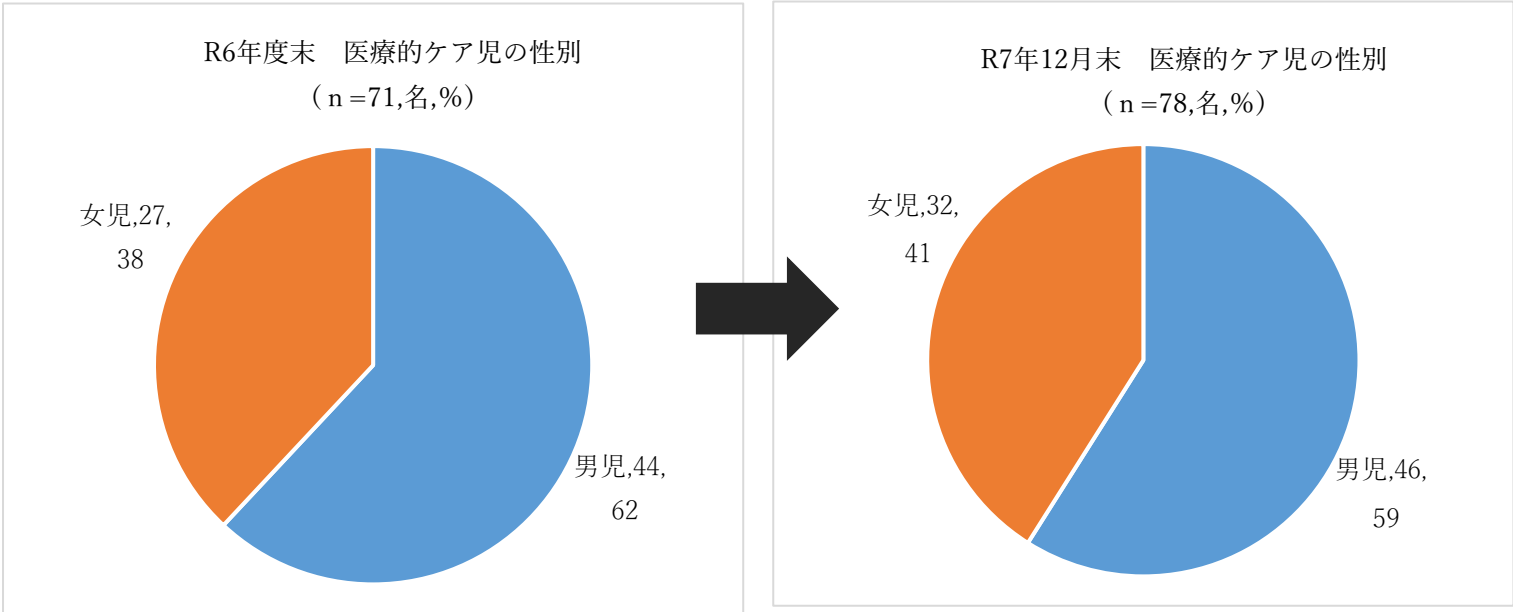


## ②障害福祉課で把握している医療的ケア児の性別

・R6 年度末では、「男児」が 44 名(62%)、「女児」が 27 名(38%)であった。

・R7 年 12 月末では、「男児」が 46 名(59%)、「女児」が 32 名(41%)であった。

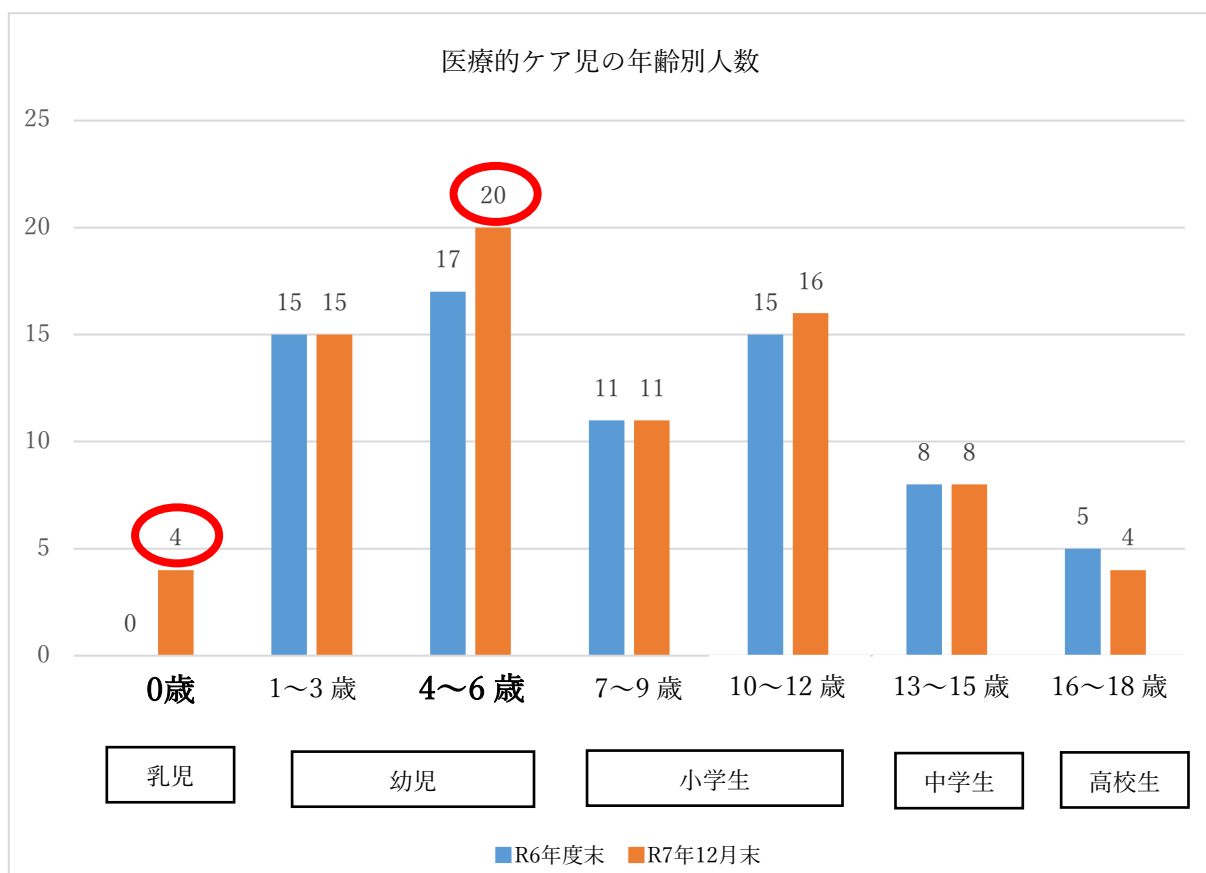
・令和 6 年度末から増加している 7 名の内訳は、「男児」が 2 名、「女児」が 5 名であり、「女児」の割合が増加している。



### ③障害福祉課で把握している医療的ケア児の年齢

・R6 年度末では、「0 歳(乳児)」の把握はなく、「1～6 歳(幼児)」が 32 名(45%)、「7～12 歳(小学生)」が 26 名(36.6%)であった。

・R7 年 12 月末では、「0 歳(乳児)」が 4 名(5.1%)、「1～6 歳(幼児)」が 35 名(44.9%)、「7～12 歳(小学生)」が 27 名(34.6%)であった。



●R6 年度末の平均年齢は 8.3 歳、R7 年 12 月末の平均年齢は 7.4 歳であった。

→医療技術の発展に伴う出産時の救命率の向上や、医療機関の在宅移行への体制づくりの強化が図られていることなどから、乳幼児期の医療的ケア児が増えており、平均年齢が低くなっていると考えられる。

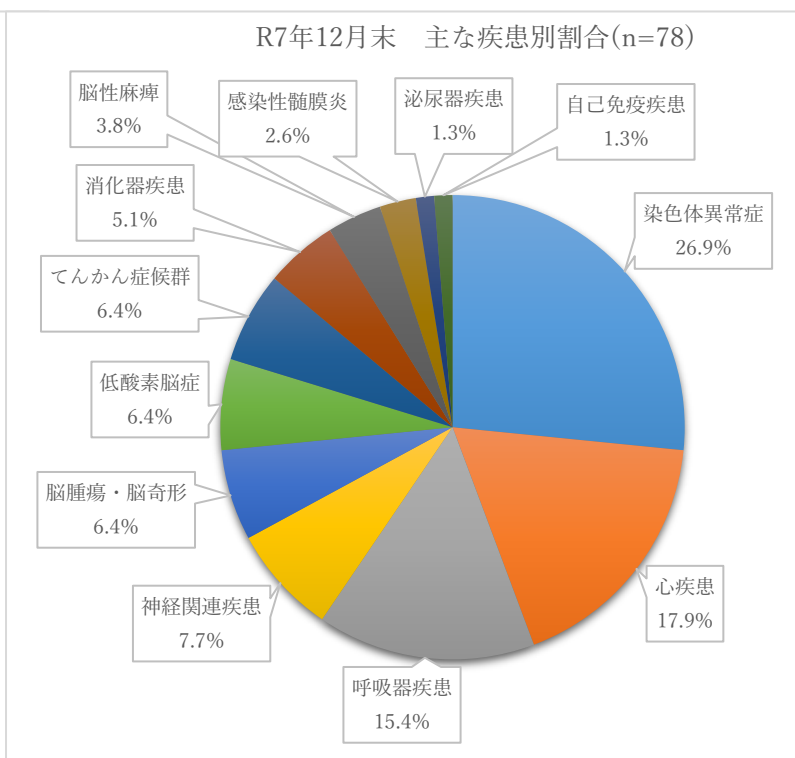
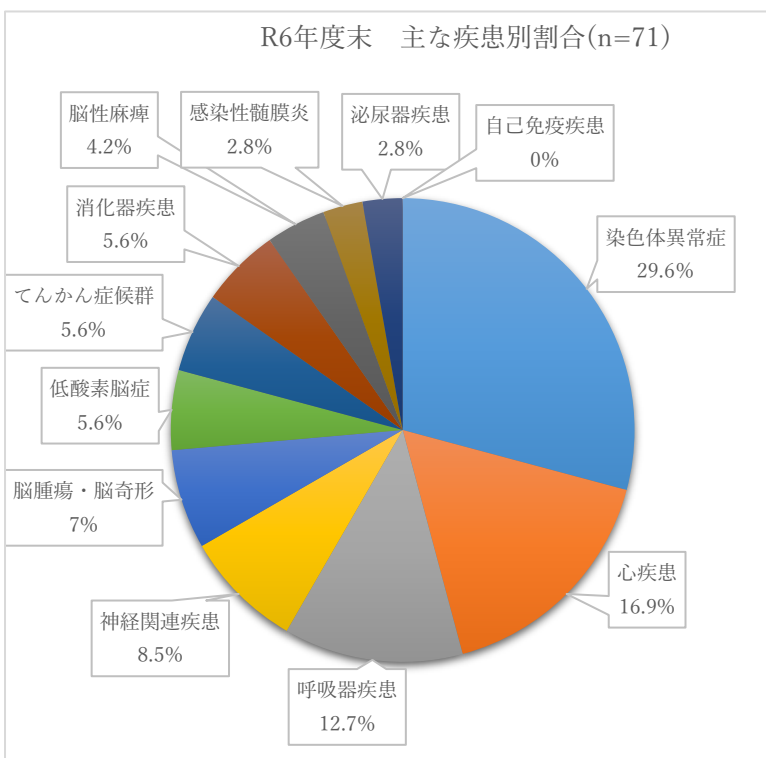
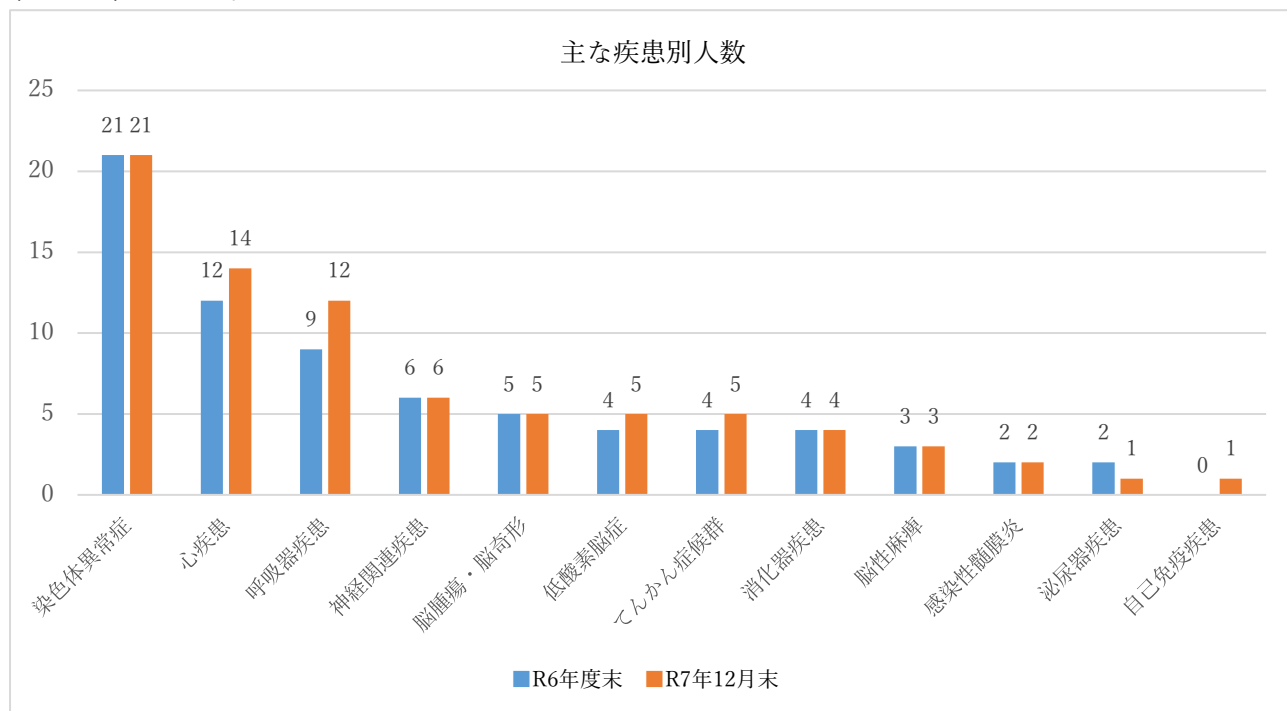
●医療的ケア児等相談窓口である障害福祉課と、こども健康課やこども育成室、学校教育課との連携を行った結果、医療的ケア児の把握に繋がっていると考ええる。

④障害福祉課で把握している医療的ケア児の主な疾患

・R6 年度末と R7 年 12 月末ともに「染色体異常」が最も多く、次いで「心疾患」「呼吸器疾患」であった。

・R6 年度末では、「染色体異常」が 21 名(29.6%)、「心疾患」が 12 名(16.9%)、「呼吸器疾患」が 9 名(12.7%)であった。

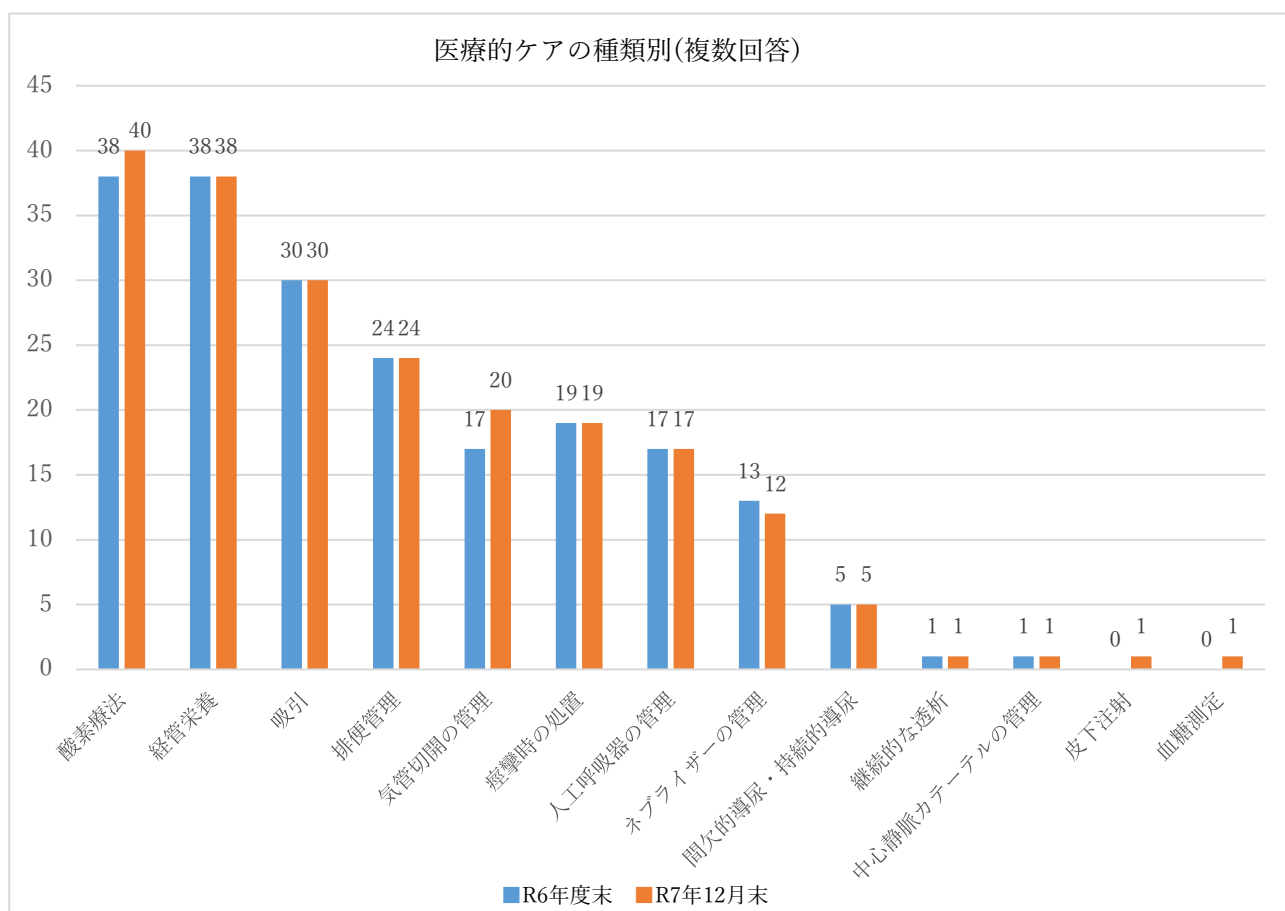
・R7 年12月末では、「染色体異常」が 21 名(26.9%)、「心疾患」が 14 名(17.9%)、「呼吸器疾患」が 12 名(15.4%)であった。



●R6 年度末から R7 年 12 月末まででは 7 名の増加であり、主な疾患別割合に大きな変化はみられない。

⑤障害福祉課で把握している医療的ケア児に必要なケアの種類(複数回答)

|                   | 1位                   | 2位              | 3位            | 4位              | 5位                 |
|-------------------|----------------------|-----------------|---------------|-----------------|--------------------|
| R6年度末<br>(n=71)   | 酸素療法、経管栄養<br>(53.5%) |                 | 吸引<br>(42.3%) | 排便管理<br>(33.8%) | 痙攣時の処置<br>(26.8%)  |
| R7年12月末<br>(n=78) | 酸素療法<br>(51.3%)      | 経管栄養<br>(48.7%) | 吸引<br>(38.5%) | 排便管理<br>(30.8%) | 気管切開の管理<br>(25.6%) |



- 本市では、主な疾患で「染色体異常症」「心疾患」「呼吸器疾患」が多いため、それにより酸素療法や経管栄養、吸引などの医療的ケアが必要な医療的ケア児が多いと思われる。
- R6年度末からR7年12月末にかけて、大きな変化はない。医療的ケア14項目のうち、「鼻咽頭エアウェイの管理」以外の13項目のいずれかのケアを必要としている児が市内で生活している。